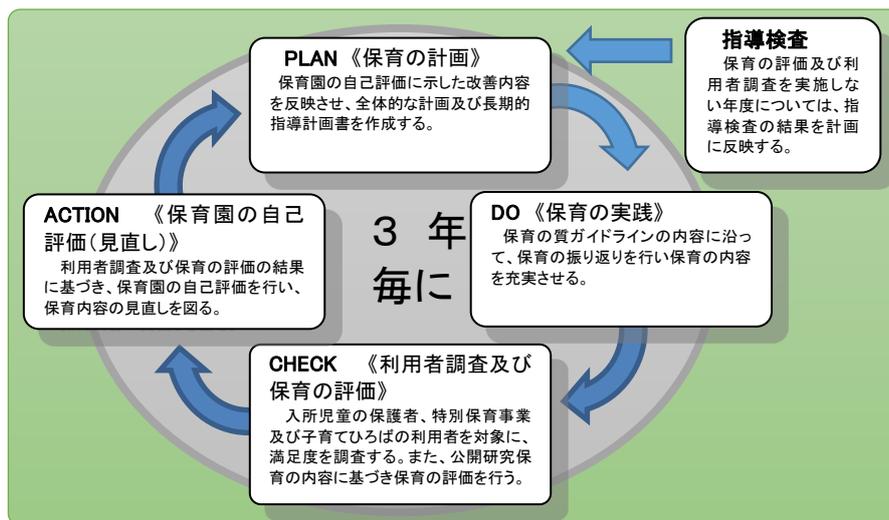


令和4年度
八王子市立保育園（公設公営園）
保育所の自己評価

国は、平成29年（2017年）3月31日に公示された新保育所保育指針の中で、「保育士等は、保育の計画や保育の記録を通して、自らの保育実践を振り返り、自己評価することを通して、その専門性の向上や保育実践の改善に努めなければならない。」と明記しています。また、八王子市は、平成30年12月に、公立保育園が八王子市の保育における中核的な役割を果たしていくため、「八王子市（公設公営園）保育の質ガイドライン」を策定しました。

保育園が、保育施設としてその運営や保育内容等について保護者の皆様や地域の皆様に説明することは、保育所の重要な責務です。このことを踏まえ、公立保育園では保育の質の向上を図るために、利用者調査、公開研究保育とともに保育所の自己評価を実施しました。

今後は、評価の結果を踏まえ当該保育所において保育内容等の改善を図るとともに、保護者の皆様や地域の皆様との信頼関係がより強固なものとなるようにしてまいります。



評価責任者

八王子市子ども家庭部子どもの教育・保育推進課
みなみ野保育園 施設長 和田 輝美

令和4年度（2022年度） 保育所の自己評価 評価結果		
評価項目	評価結果	評価結果・具体的事例および改善方法
<p>保育の方針 1</p> <p>子どもが人格を形成していく上で、自己肯定感を持てるようにすることが大切である。職員は、子どものあるがままを受け止め、自分の意思を自由に表現できるように保育の中で援助していく。</p>	97%	保育士等は、子ども一人ひとりの心を受け止め、子どもが自らの意見を発信できるように耳を傾け、価値観を尊重して向き合ってきた。また、「八王子市子どもすこやか宣言」を掲示し、子ども一人ひとりが主体的に活動し、自分への自信がもてるような関わりを大切にしている。引き続き、自己肯定感が高まるように援助していく。
<p>保育の方針 2</p> <p>子どもが保育園生活をおくる上で必要なルールを知らせるとともに、人にはそれぞれ違いがあり、その違いを認め合うことを伝えていく。</p>	91%	保育士等は、子どもが、生活の様々な場面で他者を意識し、多様な考えに触れ、お互いのよさを認め合う仲間関係の構築に努めてきた。今後も、子どもの人権を尊重し、子どもを権利の主体として健やかな育ちを支援していく。
<p>保育の方針 3</p> <p>人の成長には豊かな経験が必要であり、特に乳幼児期においてはそれが実体験でなくてはならない。人的・物的な環境を整え、自然に集団となつてあそぶ中で様々な体験ができるようにしていく。</p>	88%	保育士等は、子ども自身の興味や関心が触発され、好奇心をもって自ら関わりたくなるような環境を構成し、日常的に異年齢交流ができるように配慮してきた。保育士等は、自らも子どもに大きな影響を与える存在であることを踏まえ、引き続き、人間性や専門性の向上に努めていく。
<p>食育</p> <p>食事は子どもの身体的成長の基本であり、心豊かに食を楽しみながら自然の恵みに感謝し、子どもの命を守る大切な事項である。年齢にあった調理方法や栄養のバランスはもとより、食習慣の確立・栄養教育・心の健康づくりという目的に応じて一人ひとりの子どもに配慮する。</p>	94%	保育士等は、子どもの状態に応じて、食に関わる体験を保障してきた。子どもたちが、野菜の栽培を通して生長を楽しみ、食べる意欲を引き出すとともに、収穫祭を行うことで自然の恵みに感謝する心が育つように配慮してきた。食事が、子どもにとっておいしく魅力的なものであるように、今後も工夫し、その質の向上に努めていく。
<p>子育て支援</p> <p>子どもの健やかな育ちを保障するため、家庭との連携を深めるとともに、在園児保護者及び在宅の子育て家庭における養育力が向上するよう援助していく。</p>	89%	保育士等は、プライバシー保護を順守し、在園児及び在宅の子育て家庭の保護者を受容するとともに、子どもの育ちを共に喜び、保護者自身の自己決定を尊重する支援を行ってきた。状況に応じて、社会資源の情報を提供できるように、関係機関との連携を図っていく。
<p>職員の資質向上</p> <p>保育者に求められる専門性や倫理観を高めるため、保育の質の確保に向けた取り組みを組織的に行う。</p>	86%	園長は、外部研修を積極的に活用し、子どもの最善の利益を考慮する職員の育成に努めてきた。また、職員の同僚性を培うために、定期的に園内研修を実施し、主体的な職員集団を目指してきた。引き続き、保育の質の向上に努めていく。
<p>安全管理と災害への備え</p> <p>日々、子どもたちの健康に留意するとともに、災害や事故に対する準備と心構えを持ち、それに係る訓練などを欠かさずに、子どもの安心・安全を守る。</p>	92%	保育士等は、子どもたちの健康状態を把握し、その留意事項について、朝礼や会議で共有してきた。また、固定遊具及び日常点検表に沿って、定期的に危険箇所を確認し、必要に応じて修繕を行ってきた。月1回の避難訓練では、子ども自身が自分の身を守る術を身に付けられるように配慮し、保育の中に様々な活動を取り入れてきた。引き続き、子どもの安心・安全を守り事故防止に努めていく。